

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891400075		
法人名	医療法人社団 紀洋会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム篠山		
所在地	兵庫県篠山市西新町115-2		
自己評価作成日	平成28年10月22日	評価結果市町村受理日	平成29年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター
	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19
訪問調査日	平成28年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境でその人らしさを尊重し、家族のように共に支え合い・寄り添い・暖かな雰囲気の家を目指しています。洗濯物や野菜の下ごしらえ、買い物、好きなおまんじゅうを食べに行ったり、家に外出したりと入居者が出来る事やしたい事ができるように取り組んでいます。フロアには楽しい思い出が思い起こしやすいように写真を飾り季節を感じられるよう作品作りを行っています。毎月の行事実施や外出、隣の公民館である地域サロンに出かけています。玄関先・中庭のお花の手入れや行事、年末の大掃除など地域の方のご協力も多く、今年度は新たな行事にも取り組みました。ご家族には毎月の広報と共に入居者の様子や医療面等を手書きの手紙でお伝えしています。面会時には明るい挨拶と入居者の様子や顔を合わせてお話しご家族のお気持ちも伺いながら信頼関係が築けるように心掛けています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設を訪れた時の職員の対応が丁寧で、明るく、爽やかであった。居間でくつろいでいた利用者の方々同士、あるいは職員との会話も弾み、利用者の皆さんの生き生きとした姿が見られた。「家族のように支え合い、寄り添い、温かな雰囲気の家をめざす」という事業所の理念が職員全員で実践されているように感じられた。防災訓練での協力、大掃除のお手伝い、地域行事への参加、幼稚園児との交流等々、地域住民との交流を積極的に進め、地域住民の一人としての意識が芽生えている。経営母体が医療法人であることを存分に活かしている。日頃の情報交換、定期的な往診はもちろん、緊急時の対応にも万全を期し、利用者が安心・安全に暮らせるように体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 三 者	項目	自己評価	第三者評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境を大切にしています。家事はご入居者ができる所と一緒に買い物や洗濯などの生活に近づけるようにしています。基本理念を事務所内と職員トイレ内に掲示しいつでも見られ目に着きやすいようにしています。	「家庭的環境で、その人らしさを尊重して穏やかな生活の支援」を理念に掲げ、その理念を具現化すべく事業所目標を決めている。今年度の事業所目標は「認知症啓蒙活動の実施と拡大、新たな行事への挑戦、個別ケア」であり、職員も各自の個人目標を決めて日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎月、隣の公民館で行われる地域サロン「うきうきパーティー」に参加している。地域サロンと合同で行事をする事もある。ホームの行事にも地域のボランティアに参加してもらい協力を得ている。	隣接する公民館で行われる地域サロンに参加して老人会等の地域の人たちと交流している。幼稚園児との交流も6年前より継続しており、今年度は利用者・職員・地域の人たち合同で劇を行った。地域の祭りに参加し、事業所前でスーパボールやお菓子のつかみ取りの店を出し、地域の人々と一緒に楽しんだ。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1度、職員が地域サロンで認知症の基礎や予防について話をする機会がある。職員2名キャラバンメイト養成研修を受け認知症啓蒙活動を行っている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動を報告し、転倒等の事故も報告している。運営推進会議には入居者も参加され交流が図れるようにしている。今年度は2回ご家族の参加がありホームが地域とどうかかわっているのかを理解して頂く機会となった	利用者、利用者家族、自治会長、地域サロン会長、民生委員、地域福祉課職員、地域包括支援センター職員の参加の下、2か月に1回開催されている。事業所の活動を報告し、地域の情報を得てサービスに活かしている。今年度は開催日を調整して家族の方に参加して頂けるようになった。会議議事録を家族に送付している。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の介護保険課職員、包括支援センターの職員も参加してもらいホームの活動を伝えている。介護相談員から入居者の言葉を聞き、支援に活かしている	市の地域福祉課職員、地域包括支援センター職員とは運営推進会議に出席してもらい協力関係を築いている。介護相談員からは利用者の思いを聞いてケアに活かしている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度研修を実施。職員が交代で講師を教える側に立つことで、より理解が深まるようにしている。毎月のミーティングで気になる事が無いか話し合っている。	年に1回、職員が講師となって「身体拘束」について事業所内研修を行っている。毎月のミーティングでは日々のケアにおける細かな点まで話し合うようにしている。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	年に1度研修を実施。職員が交代で講師を教える側に立つことでより理解が深まるようにしている。毎月のミーティングで気になる事が無いか話し合っている。年に2回個別で職員面談を行い職員の話聞く機会を設けている。	年に1回、職員が講師となって「虐待防止について」の研修を行っている。「接遇」の研修も行われており、ケアにおける言葉による虐待にも注意が払われ、人権を尊重した丁寧な言葉掛けとなっている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度パンフレットを利用し研修を実施している。	今年度は権利擁護の研修会に参加出来なかったため、その研修パンフレットも利用して職員が講師となって研修を行う予定である。任意後見制度をお一人の方が利用されている。	管理者・職員が成年後見制度を含めて、広く権利擁護について学ぶ機会を得て、更なる利用者の権利擁護に取り組まれることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込みされる時はできるだけ見学に来て頂くようにしている。入居前に書類を元に説明している。	申込前に利用者と家族に見学して頂くようにしている。契約時には重要事項説明書に基づき説明し、利用契約書、自費同意書、個人情報提供書に同意を頂いている。起こり得るリスクについても説明している。終末期ケアに関しては「終末期ケア」(看取り指針)に基づいて説明し、同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者の様子を顔を見てお伝えするようにしている。今年度は毎月、個々に居室担当から入居者の日常の様子や医療からの話を書いた手書きの手紙を送るようにしている。年に1度匿名のアンケートを実施しご家族の率直な意見が伺えるようにしている。	年に1回、無記名のご家族アンケートを実施して家族の意見や要望の把握に努めている。運営推進会議の開催日の調整もこのアンケートからわかり、家族の参加も実現している。面会時や家族会でも話し合う機会を持つように努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度ミーティングを行いケアの確認や業務改善、提案を話し合っている。日々の申し送りでも気になったことや小さな出来事でも話し合い、伝え合うようにしている。	日々の申し送りや毎月1回のミーティングでケアの確認や業務改善、提案を話し合っている。事業所で決定された要望や意見は法人会議に出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の特性を生かし担当や仕事を任せるようにしている。職員の勤務状況や努力を上司に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で力量に合わせた研修が受けられるようになっている。今年度はキャリアパス(職員育成計画)に基づいて効果的に職員の育成に法人単位で取り組んでいる。職員との個人面談時にもその内容を伝えている。外部の研修もできるだけ参加できるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で介護研究発表やキャリアパス(職員育成計画)の研修に参加し法人内の他の事業所と交流を持ちながら勉強できる機会を設けている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者との会話を増やし、寄り添い、ご本人の望みや想いを受け止め安心してホームで生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなくご家族の気持ちも大切にできるよう、契約時や見学時にも話を伺うようにしている。ご要望は職員間で共有し、いつでも相談してもらえるよう声掛けをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネージャーとも相談し適切なサービスに繋がるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、暮らしを共にする先輩としてご入居者のアドバイスも伺いながら一緒に家事を行っている。ご入居者に助けて頂く事が多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お正月、お盆は家で過ごされる方も居られる。外出・外泊は制限なし。ご本人の誕生日にはご家族に声をかけ誕生会と一緒に楽しく過ごせるようにしている。面会時はゆっくりと家族の時間が過ごせるよう環境づくりを大切にしている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の知人、友人、兄妹の面会がある。自宅方面へドライブに行ったり馴染みの場所のお話をすると喜ばれている。ご家族の協力で通いなれた美容室に行ったり自宅へ外出する方も居られる。	馴染みの人達(知人、友人、兄弟姉妹等)の面会がある。自宅方面へドライブに出掛けたり、馴染みの店への買い物や美容院に行かれる方もおられる。お盆やお正月に自宅へ外出される方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間でスムーズにコミュニケーションが取り難い時は職員が間に入るようにしている。入居者同士のコミュニケーションが円滑にできるように席の位置を変化させる事もある。居室で過ごされる事が多い方も居室へお邪魔し一緒に編み物をしたりゆっくりお話しをする機会を設けている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先や施設の面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話からご本人の想いや意向を確認し、申し送りや療養記録に残し情報を共有すると共にご本人の希望に沿えるよう職員で検討しケアできるようにしている。	今年度の事業所目標である「個別ケアの充実」を実現すべく、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。思いや意向は利用者のつぶやきと共に申し送りノートや療養記録に記載され、職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族が話しやすいよう関係を築き聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな事でも記録に残し、毎日の申し送り時に伝えるようにし現状の把握に努めている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時はご本人、ご家族とカンファレンスを行いご本人の状態を共有しご希望を伺うようにしている。	年1回、本人や家族と協議し、意見や要望を聞き取り介護計画を作成している。モニタリングは毎月行っているが、その期間に変化が生じた時には臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきは療養記録に記入している。申し送りや毎月のミーティングで入居者の様子を話し合い、ケアに繋げると共に介護計画の見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人からの希望にはできるだけ早く対応できるようにしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンへ毎月参加している。サロンと合同行事も実施。小学校の運動会を見に行ったりしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診があり日々の様子を伝えている。医師からの話は面会時や毎月のお手紙に記載しご家族へ伝えている。必要に応じて医師と家族が話す機会を設けている。	月2回内科医の往診と月1の歯科医の往診がある。週1回歯科衛生士による口腔ケアがある。受診結果は毎月の家族宛の手紙や面会した時に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回看護師訪問があり日々の様子や職員が心配している事を相談している。24時間365日電話で連絡が取れる体制となっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はこまめに顔を見に行くようにしており家族や医療関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、こまめに顔を見に行くようにしている。医療機関とは日頃から連携に努めておりスムーズに入退院の受け入れができる。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取り事例なし。以前看取りを行った際はご本人・ご家族の希望を大切に、医療と相談しながらチームで取り組んでいた。	入居時に「重度化及び看取りについての指針」にて終末期ケアについて説明し、同意を得ている。終末期には改めて、医師、家族との話し合いが行われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順書がありどの職員でも対応できるようにしている。消防訓練時に消防士から心肺蘇生、応急手当、担送法を指導いただいている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署員と共に消防訓練を実施。運営推進会議で災害時について話し合い、10月に地区の防災訓練に入居者と参加。職員の研修で防災について考える機会を設けた。	年2回、消防署の立ち合いの下、消防訓練を実施している。今年度は通報訓練と避難訓練を行い、地震と水害について消防士による講義を受けた。地区の防災訓練に利用者と共に参加した。運営推進会議でも災害対策について話し合いがなされ、地域の人には見守りをして頂くようになっていく。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴時、排泄時は注意している。個々に合わせた声かけや対応を行うようにしている。居室で過ごされる時間も大切にしている。	どんな場面においても自己決定しやすい声掛けをするように心がけている。特に入浴時、排泄時には、さりげない誘導や声掛けをするようにしている。居室でゆっくり過ごされる時間も大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの場面においても自己決定しやすい声かけを心がけている。ご本人の意思を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿えるよう出来る限り対応するように心がけている。好きなおまんじゅうを食べに行ったり、買い物に出かけている。家で過ごしたいと伺った時はご家族に相談する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームで髪染め、散髪を行っている。ご家族となじみの美容室に行かれる方もいる。外出時はご本人と相談しながら化粧品や洋服を選んでもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカット、おかずの盛り付け、台拭き、お茶入れ、等食事に向けて一緒に準備を行っている。調理方法や味付けを教えてもらう事もある。	食材の買出しから料理、盛り付け等利用者と一緒にやっている。手作りおやつや干し柿作り等も楽しんでいる。誕生日はお赤飯を用意し、ご家族にもお声かけをする等、特別な日としてお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事や飲み物を提供している。飲み物は数種類用意し美味しく水分補給できるようにしている。カロリーカットの砂糖やトロミを個々に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食食後には重層水でうがいと舌ブラシを使用しケアしている。月に一度口腔外科医往診、月4回歯科衛生士による口腔ケアを実施し衛生のアドバイスにて歯間ブラシを使用している方も居られる。		

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度が高くなってでも日中はトイレでの排泄を促し気持ちよく排泄できるようにしている。排泄表やご本人の様子から排泄のリズムがつかめるよう心がけている。	日中はトイレでの排泄を基本として、チェック表も活用してさりげない声かけと誘導に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然に排便ができるよう腹部マッサージや運動を促し、それでもでなければ主治医の指示にしたがって薬を使用している。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望があればその日か翌日には入浴できるようにしている。ご希望が無い時は個々に合わせて声をかけ入浴を促している。入居者が心地よく入浴できるよう室温や浴槽内椅子、入浴リフトを使用している。	週2～3回の入浴となっているが、個々の希望に沿うように配慮している。座位の可能な人が対象であるが、入浴用リフトを使用できるようになった。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて早めに休んで頂いたり電気毛布やエアコンを利用している。自宅で使用されていた布団を持ってきて頂き気持ちよく休めるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に変更があった時は、特にご本人の様子に注意し気が付いたことは看護師に報告している。処方箋は事務所にファイルし、どの職員でも目が通せるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や散歩、地域の行事、自宅周辺の行事好きなおまんじゅうを食べに行ったり、毎身体操だけでなくレクリエーションも実施している。			
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と馴染みの美容室に行ったり、地元のお祭りに参加したり、地域の方とお店を開いたりしている。お盆や、お正月には家に帰られる方もいる。	個別ケアを大切にしながら日常的に散歩や買い物に出掛けている。ご家族と外食に出掛けたり、自宅に帰られたりしている方もおられる。家族の参加の下、バスで日帰り旅行(今年度は吉川温泉)に出掛けた。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かっているお小遣いをご本人の希望を伺い使用している。お小遣い帳を付けレシートも保管している。2ヶ月に1度家族にお小遣い帳のコピーを送り使用方法に問題が無い確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状をご家族と地域の方に送っている。ご自身で書ける方は職員と一緒に書けるよう声をかけている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような作品と一緒に作り飾ったり、毎月の日頃の様子や行事の写真をフロアに飾り楽しい思い出が思い出しやすいようにしている。フロアにはソファを置きゆったりとくつろげるようにしている。	居間や廊下から眺められる中庭は季節感を感じさせてくれる。居間の窓からは風情ある竹藪と通行する人を見ることができる。吹き抜けの天井は開放感がある。居間には開設当初から利用者と職員が一緒に作りあげた年毎の干支の絵画や行事の写真等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは相手との距離も近く、入居者同士での会話があたり、相手の足を擦ったりしてコミュニケーションを取られている事もある。全室個室で一人になりたい時は部屋で過ごすことができる。入居者同士、居室でお話される事もある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・カーテン以外は慣れ親しんだ物を持ち込んでもらうようにしている。ご家族の写真や手紙を飾ったりしている。家具の配置は安全にも配慮しご本人とご家族と相談し配置している。	家での生活環境に近く、継続的に感じられるように家族と相談して居室を作り上げている。家で使用していたスケジュールボードや家族の写真を飾る等工夫している。家具は安全面や動きやすさを考慮して配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かりやすいよう張り紙をしたり、居室の電灯に紐をつけ入居者で灯りを調節できるようにしている。汚物を入れるバケツや袋を設置している方もいる。		

基本情報

事業所番号	2891400075
法人名	医療法人社団紀洋会
事業所名	グループホーム篠山
所在地	兵庫県篠山市西新町115-2 (電話) 079-506-4226

【情報提供票より】(H28年 10月 22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成21年3月9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤 4人 非常勤 6人 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費	光熱水費 26,000円/月
敷金	無		日用品費 421円/日
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	155 円	昼食 309 円
	夕食	361 円	おやつ 103 円
	または1日当たり () 円		

(4)利用者の概要(平成28年10月22日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低 71歳	最高 93歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 紀洋会 岡本病院
---------	-----------------

(様式2(1))

事業所名:グループホーム篠山

目標達成計画

作成日:平成28年12月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	事業所の力を活かした地域貢献について、活動の維持と拡大をしたらよい	小学生に認知症について話をする機会がもてる	地域福祉課、小学校と相談する	12か月
2	7	権利擁護に関する制度の理解と活用について専門職を講師として招き研修を受ければよい	専門職より権利擁護について学び、地域や家族、必要と思われる方へ情報を発信する	平成29年2月に研修実施できるよう連絡済み	12か月
3					
4					年
5					年

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()